全教・女性部　10年度10月号2（NO、249・北欧スタディーツアー②）
いきいきニュース 2010・10・14

人にやさしい国　フィンランド・デンマークを訪ねて

全労連女性部結成２０周年記念北欧スタディツァーに参加して

全教女性部事務局長　木原秀子

＜デンマーク・コペンハーゲンにて＞

⑤「労働者博物館」・・デンマークのナショナルセンター「ＬＯ」（デンマーク労働総同盟）が設立、運営しています。

デンマークの産業革命や労働時間短縮、賃あげなど、労働者のたたかいの歴史が展示されていました。8時間労働を掲げた真っ赤なタペストリーや当時の貴重な労使確認書がかざってありました。労働運動の成果で1871年は労働時間が1日12～13時間だったのが、1896年には10時間に改善され、1919年に8時間労働制が確立しました。1936年1週間の有給休暇、1956年国民年金制。昼食は、1800年代の労働者の夕食と、組合が作ったビールをいただきました。当時は水が高く、アルコール度の低いビールを組合で作っていたそうです。豚肉や魚のマリネなどとてもおいしく、ビールもさっぱりとした味でした。

ビールのラベルは当時のもの。皮ちょっと硬めの豚肉やマリネがおいしかった・・もちろんビールも

1人の女性が家事、労働、育児、夫の世話など8本の手でこなし、おまけに頭の上にポットをのせている。いろいろなことが女性にのしかかっているという風刺のお皿。（ロイヤルコペンハーゲン社）

上記タペストリー（8時間は働き、8時間は休息、8時間は自由な時間）の刺繍。額の中は当時の労・使確認書。

⑥小中学校に併設されている、学童保育　社会福祉法人「余暇の家」

6歳～10歳の学童85人が通っています。8人の職員が指導しています。職員は社会福祉士の組合に加入しています。朝6時45分～8時までは登校前の子供を預かり、朝食も食べさせているそうです。授業が終わって12時半ごろ学童にくる子が多い。

ここの小中学校は0年から3年までの子供は350人いて、子どもたちが6つの学童に分けられ通っています。「余暇の家」は学校内にあり、敷地が広く人気が高いそうです。終了は17時。クラスの定員は決まっていません。利用料は月1400クローネ（22400円）、収入の少ない人や、きょうだい、家庭の事情など配慮が必要な子は減免されます。当日は指導員のギター伴奏で歓迎のうたをうたってくれました。折り紙を教えてほしいということだったので、本や折り紙をたくさん用意し、新聞紙を使った兜や、紙でっぽうの音を鳴らして楽しいひと時を過ごしました。（教える方も・・）

3時過ぎから、お迎えの親が来ます。この日はお父さんの迎えが多かったように思います。懇談の後、施設を見学。広い部屋とゆったり遊べる外の施設やバスケットコート、あづま家もあり、自由に好きなことをして遊んでい

折り紙で交流！

庭には東屋もありました

ました。

3時を過ぎるころから、街中は保育園や学童帰りの親子や、自転車通勤の仕事帰りの市民が多くなります。（デンマークは平地が多いので自転車がものすごく多く、歩道や車道とは別に自転車道路があるのです！）4 時過ぎには仕事が終わって帰宅し、家族そろって夕食があたり前の働き方をまのあたりに見ることができました。

⑦女性とジェンダーのための情報センター

王立図書館（建物の愛称・ブラックダイヤモンド）の中にあります。所長のクビンフォーさん(女性)が対応。1987 年独立法人となり、女性とジェンダー関係の書籍収集、女性の状況、男女平等の推進などが活動内容となっています。研究者、女性組織、労働組合のネットワークあり、知識の共有をし、共通目標で行動しているそうです。市議選のとき、候補者にジェンダー平等など公開質問状をだし、回答をパンフレットにしたり、移民の人に関するメンタルサポートをボランティアでやったりしているそうです。高校を所轄する法律が変わって（多分、日本でいう、学習指導要領のようなものだと思います）高２高３で論文を書くことになり「自分の生活に影響力を持ったこと」などのテーマが与えられ、女性運動などについて資料を求める生徒が増えているそうです。予算は文化省から 700 万クローネ(1 億 2 千万円くらい)。王立図書館の一般活動 2000 万クローネ(3 億 4 千万円)が外務省から出ています。

⑧高齢者介護施設「ホルメゴースパーケン」。

施設を見学。通訳の鈴木さん（前列左）と所長さん（前列右）

高級住宅街の中にある施設で、敷地も広くゆったりと建物が建っていて、教会もありました。施設の中に、美容院や、フットセラピーなども完備されていて、自由に行くことができます。介護施設の中では一番古く 150 周年を迎えたそうです。独立機関で半官、半民。現在、認知症の人、自分で暮らせない人など 145 人入居しています。スタッフは 350 人で外国籍の職員も 77 人働いています。

スタッフは作業療法士、理学療法士、栄養士キッチン、事務、清掃などそれぞれが連携しあってケアーしています。「自分の家のように、自由に暮らせる安心感。意味のある暮らし」を追求しているそうです。大切にしていることは、入居者のこれまでの経歴を大切にすること、常にきれいな身なりで衛生的な生活をすること、食事がチョイスでき、楽しむことができること、自分のもっている能力をできるだけのばすこと、人生の最後を「価値ある最後」にするために、みんなで協力していることなどが話されました。また、職員の研修も重視しているそうです。ダンスパーティーやビンゴなど楽しい催し物もあり、ダンスパーティーでは女性の職員が引っ張りだこだそうです。

99 歳の女性。ステキなブラウスを着ていました

デンマークでは、ホームヘルパーなどを利用してぎりぎりまで自宅で生活することを基本にしているので　入居者の平均年数は 2 年ということでした。しかし、あっという間に亡くなる人もいるが、長い人もいるそうです。入居者の平均年齢は 88 歳で 6,7 人は 100 歳を越えています。85%が認知症、15%は頭はクリアーだけれど援助が必要ということでした。入居待ちの限度は、特別に指定する施設は４ヶ月、どこでもいいという人は２ヶ月だそうです。入居者は個室で、自宅で使っていた自分の思い出の品物、家具などを置いています。個人のバスルームもあり、清潔に保たれています。話をすることができた 99 歳の女性の部屋は、高級家具があり家族の写真も飾ってありました。ステキな白髪にマーガレットのイヤリング（有名なブランドだそうです）をつけて、ゆったりとした老後を過ごしている感じがしました。

休日には家族が訪れ、一緒にハイキングに行ったり、パーティーなどもあり、いい関係を保っています。日本で言う「介護疲れ」なんてことはないそうです。

忙しかったけれど楽しいツァーでした。女性部運動に生かしていきたいと思います、12 月には全労連女性部で報告集を作ります。

10 月 9 日・10 日に行われた、第 20 回全国女性教職員学習交流集会ｉｎＯＳＡＫＡに 835 名参加！現地大教組女性部の皆さん、ありがとうございました。100 名を越す大教組女性部の仲間がステージに上った構成劇「あしたも学校へ行きたいな」に感動し、安斎育郎さんの流れるような話にも感動し、柏原市教職員組合の太鼓も迫力があり、500 人の大夕食交流会で踊り歌い、基礎講座・分科会で学び、充実した 2 日間でした。詳細は次号で。